

第1学年国語科学習指導案

1 単元名 おんどくランドにまほうをかけよう 『けんかした山』
～すてきなげきだん1の2わあるど～

2 単元の見込み

- 場面の様子を想像し、楽しさを味わいながら読もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- 言葉や挿絵を手がかりにして、場面の様子を想像しながら音読したり付け足したい言葉を書いたりしている。 (読むこと)
- 漢字の成り立ちに興味をもち、学んだ漢字を理解し、ほぼ正しく読み書きしている。(言語事項)

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
挿絵を見ながら、場面の様子を想像して進んで読もうとしている。 物語を、楽しさを味わいながら読もうとしている。	緑に包まれるようになった山の様子や時間の経過にもなう動物たちの気持ちを想像しながら、音読している。 (ア) 場面の様子について、言葉や挿絵を手がかりに、登場人物のしたことを思い浮かべながら読んでふきだしの言葉を考えている。 (ウ)	新出漢字や平仮名を、正しく読んだり書いたりしている。 (ア)

4 単元について

(1) 単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、小学校学習指導要領解説・国語編「第1学年及び第2学年」「C読むこと」の言語活動例「ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと」を踏まえ、絵や言葉を手がかりに物語の大体を読むことをめざし、自分が考えた「まほうのせりふカード」を生かして、1年生の他学級の友だちに紹介するという言語活動を位置付けた。絵や言葉を手がかりに登場人物の気持ちを考えていくことで、音読会をするための力をつけていながら意欲的に「他学級の友だちに音読劇を見てもらいたい。」というゴールへの意欲を引き出していきたい。

「けんかした山」は、1年生の入門期における物語教材として、すじの展開がはっきりとし、わかりやすく、楽しいお話である。二つの山が互いに譲らず、けんかばかりしている様子が、挿絵と文章からこの時期の子どもたちにもよくわかる。また、「お日さま」「お月さま」という言葉から時間の経過が1年生にもよくわかるように書かれている。なので、時間的順序を考えながら読む力を養っていきたい。五つの場面の二つの山の様子を比較することにより、場面の様子を想像しながらふきだしを考えていきたい。この物語では、日々けんかばかりしている二つの山が主に登場する。子どもたちは、自分の日常と照らし合わせながら場面の様子を想像することができるだろう。また、二つの山が爆発したとき、まわりの森、小鳥、動物たちの気持ちになり、大きく気持ちが動く。山の火がおさまり、しょんぼりとしたときにもまた自分の経験と重ねることができるだろう。本文から読み取ったことを表現できるようにするために、登場人物の気持ちを想像していくときには、ま

ず、五つの場面での挿絵の違いを意識させていきたい。また、文章から山の様子の違いを発見させていきたい。

そこで、子どもたちが登場人物の気持ちを考えやすいようにするために「まほうのせりふカード」(ふきだし)を活用する。この「まほうのせりふカード」とは、教科書と同様のワークシートに短冊のような付箋を貼れるようにする。本文の行間を空けて、どこでも貼りやすいようにしてあり、どの登場人物の気持ちも書けるようになっている。また、本文の途中に気持ちを書けるようにすることで、ゴールとして設定している音読劇にも活かしやすいようにしている。

第一次では、音読劇のモデルを提示し、学習の見通しをもたせる。自分が作ったセリフを音読劇で伝えることは、児童にとって挑戦してみたい魅力的な活動である。お話の楽しさを十分に味わえるように工夫していき、今回の学習が「まほうのせりふカードを音読に活かして発表する活動」であるということを実感させていきたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元は、学習指導要領解説「C 読むこと」における指導事項(ア)「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」と指導事項(ウ)「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」を受けて設定している。そこで、本単元では挿絵や手がかりとなる言葉から登場人物の気持ちを想像していく力を育てる。

「けんかした山」の学習では、挿絵を見て想像をふくらませながら読むことを学んでいく。五つの場面の山の様子の変化に子どもたちの心を一体化させ、日常の自分の経験を思い出させ、二つの山や動物たちの気持ちを考えて「まほうのせりふカード」に書いていく。他学級の友だちと音読劇を行うことを学習のゴールと位置付け、それぞれが認めてもらう場とし、発表して良かった、また発表してみたいという気持ちを育てていきたい。また、目的意識を明確にし、読み進めることができるよう単元を工夫し、それぞれの場面において、二つの山や動物たちの気持ちを考え、「まほうのせりふカード」に書いたり音読劇に活かしたりすることができるようにしたい。

さらに、「けんかした山」を音読劇にすることで、児童一人一人が個性豊かな音読をすることができ、意欲をもって場面の様子や登場人物の気持ちを考えることができるだろう。また、まほうのせりふカード、発表など学習活動を多様化し、楽しみながら読む力を身に付けることができるようにしていく。

(3) (1) と (2) の基盤となる言語環境や継続的な取組

①音読

様々な文を毎日音読することで、読む力が付いていくだろうと考える。また、教材文を繰り返して読んでいくことで内容を理解し、楽しんで学習に取り組むことができるだろうと考えた。

②朝のスピーチ

朝の会を使って、日直がそれぞれ本のお気に入りの場面を紹介する活動を行っている。この活動は、自分が選んだ本を紹介し、お気に入りの場面を音読するという活動である。音読を取り入れることにより、想像しながら読むことにつなげていく。また、友だちに伝える場所を設けることで、大勢の前で発表する際への自信を付けることに役立てていきたい。

6 指導計画（全11時間）

次	時	学習活動	指導や支援の手だて◇評価（評価方法）
1	1	○友だちとけんかした経験について話し合う。 ○挿絵から話の内容を予想する。 ○教師の範読を聞き、初発の感想を書く。	・題名を板書し、挿絵から物語の内容を予想させるようにする。 ・けんかした経験を想起させたり、感想を書いたりすることで、物語を読むことに興味をもたせる。 ◇単元のゴールを知ることで、音読劇をするという意欲を示す。（発表、活動）
	2	○全文を読み、登場人物、大まかなあらすじをつかむ。 ○単元の最後にお気に入りの場面を選んで音読するという学習の見通しをもつ。	・山の様子や文中の言葉に着目して気持ちを想像しながら読んでいくことを理解させる。 ・学習計画を立て、単元の見通しをもたせる。
2	3	○1の場面を読み、けんかばかりしている二つの山の様子を想像し、話し合う。 ○二つの山、動物たちの気持ちを想像しまほうのせりふカードに書く。 ○考えたせりふを、ペアで紹介し合う。	・登場人物の様子から会話文を考えさせることで、想像を広げながら読むことができるようにする。 ・情景を表す言葉に着目させることで、より想像を広げられるようにする。 ・友だちとせりふを紹介したり、できる児童は動作化しながら発表をすることで、楽しみながら学習に取り組めるようにする。 ◇けんかばかりしている二つの山の様子を読み取り、感じたことを自分の言葉でまほうのせりふカードに書く。 （発表・まほうのせりふカード）
	4	○2の場面を読み、お月さまの言葉から、夜の山や森の様子を想像し、話し合う。 ○お月さまの言葉や場面の様子から、二つの山の様子を想像し、まほうのせりふカードに書く。 ○考えたせりふを、ペアで紹介し合う。	・「もりのどうぶつたちは、あんしんしてねていられないから。」という言葉から、森の動物たちの言葉を想像して書くようにする。 ◇いこのきかない山の様子を読み取り、感じたことを自分の言葉でまほうのせりふカードに書く。（発表・まほうのせりふカード）

	5	<p>○3の場面を読み、山の様子、火に包まれた森、小鳥たちや動物たちの様子を想像し、話し合う。</p> <p>○火に包まれた森、小鳥たち、動物たちの様子を想像し、まほうのせりふカードに書く。</p> <p>○考えたせりふを、ペアで紹介し合う。</p>	<p>・「とうとう」という言葉に注目させることで、二つの山がずっとけんかしていた時間的経過に気づかせる。</p> <p>・二つの山が火を噴き、逃げ惑う小鳥たち、動物たちの様子に気づかせることで、まほうのせりふカードに生かす。</p> <p>◇どっと火をふきだした山の様子を読み取り、感じたことを自分の言葉でまほうのせりふカードに書く。</p> <p>(発表、まほうのせりふカード)</p>
	6 (本時)	<p>○4の場面を読み、お日さまの気持ちや雲の様子、雨、火の消えた山の様子を想像し、話し合う。</p> <p>○まほうのせりふカードを考えて、音読の練習を行う。</p> <p>○考えたせりふを、ペアで紹介し合う。</p>	<p>・お日さまやお月さまが前に言ったことを思い出して友だちと劇化したり、できる児童は動作化したりしながら発表する。</p> <p>◇しょんぼりとした二つの山の様子を読み取り、感じたことを自分の言葉でまほうのせりふカードに書く。</p> <p>(発表、まほうのせりふカード)</p>
	7	<p>○5の場面を読み、緑の山に変わった二つの山の様子を想像し、話し合う。</p> <p>○小鳥たち、動物たちの様子を想像する。</p> <p>○まほうのせりふカードを考えて、音読の練習を行う。</p> <p>○考えたせりふを、ペアで紹介し合う。</p>	<p>・「なんねんもなんねんも」という時間的経過のわかる言葉に気付くようにすることで、長い月日がかかったことに気付かせる。</p> <p>・けんかしている山、火を噴いている山、しょんぼりしている山、緑に包まれた山の挿絵を対比することで、場面の様子を想像しやすくする。</p> <p>◇すっかりと緑につつまれた山の様子を読み取り、感じたことを自分の言葉でまほうのせりふカードに書く。</p> <p>(発表、まほうのせりふカード)</p>
3	8	<p>○けんかした山のお気に入りの場面を決めて、友だちに紹介する。</p> <p>○お気に入りの場面の音読練習をする。</p>	<p>・自分のまほうのせりふカードを振り返らせることでなぜそこがお気に入りなのか、理由を言えるようにする。</p> <p>◇お語全体を振り返り、お気に入りの場面を見つけて紹介している。(活動・音読)</p>

9	○音読劇の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を振り返らせながら、場面の様子について、まほうのせりふカードをもとに想像を広げて読むことができるようにする。 ◇音読劇に向け、音読の練習をしている。 (音読)
10	<ul style="list-style-type: none"> ○音読劇の練習をする。 ○友だちと練習をしていきながら、お互いのよいところや、感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで行った、まほうのせりふカードを振り返らせることで、音読に活かせるようにする。 ◇音読を発表したり、友だちの音読を聞き、よいところを見つけたりしている。 (音読)
11	○音読劇をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者のよいところを見つけ、感想を言うようにする。 ◇音読劇をするために、想像を広げながら音読をしている。 (発表)

7 本時の目標と展開 (6 / 1 1)


(1) 本時の目標

○挿絵や教科書の言葉から、山がしょんぼりとしたときの気持ちを考え、まほうのせりふカードにせりふを書くことができる。 (読むこと)

本時の展開

学習活動	指導や支援の手だて ◇評価
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がモデルの提示を行う。 ・1から3の場面をまほうのせりふカードを入れて音読をする。 ・音読劇がゴールだということの確認をする。 <p>2 学習問題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの物語の流れの思い出すために、掲示物や学習計画表を示す。 ・まほうのせりふカードに書かせる意欲をもたせるために、音読劇で使うことを確認する。
<p>4のばめんの2つの山のようにすからせりふをかながえよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・4の場面を全体で音読する。 <p>3 絵や文から気持ちの分かるところを話し合う。</p> <p>【挿絵から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の場面と違って、2つの山が泣いているね。 ・動物がいなくなってしまうているね。 <p>【本文から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けんかをとめるために、くもをよんだのかな。 ・しょんぼりとしているから、悲しいのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちを想像しながら読むようにすることで、まほうのせりふカードが書きやすくなるようにする。 ・挿絵に注目させ、気持ちのわかる言葉を見つけることで、登場人物の気持ちが想像しやすいようにする。 ・まほうのせりふカードの想像をふくらませるために、1から3の場面と比べて山の色や様子が変わったことに気付かせる。
<p>4 4の場面を読んで、それぞれの気持ちを想像し、つけたしたいセリフをまほうのせりふカードメモに書く。</p> <p>【山】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんだか悲しいな。 ・雨がいっぱい降ってきたぞ。 ・けんかはだめだなあ。 ・みんなにめいわくをかけちゃったな。 ・せいくらべをしなきゃよかったな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにまほうのせりふカードが貼れるようにすることで、それぞれのまほうのせりふカードが思い浮かびやすいようにする。 ・「しょんぼりとかおをみあわせました。」から前の場面との山の様子の違いに気付かせることで動作化しやすいようにする。 ・自信がもてるように、どの気持ちも認めてあげるようにする。 <p>◇場面の様子を読み取り、登場人物の気持ちをセリフとしてまほうのせりふカードに書くことができる。 (まほうのせりふカード)</p>

<p>5 まほうのせりふカードを加えたお話を音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音読をうまくできるように、音読のこつの確認を行う。 ・動作化のできる児童は自由に動けるように促す。 ・ペアで聞きあう前に、各自で練習を行うことで、自分の書いたまほうのせりふカードを確認する。
<p>6 それぞれのセリフをペアで発表し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まほうのせりふカードに書いたセリフを、ペアで本文とセリフに分かれて紹介する。 ・発表し終わったら、お互いのよいところや感想を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な意見を取り入れられるように、友だちの意見を参考に付け足ししてもよいこととする。 ・音読を聞き、自分の音読のときに取り入れられるようにする。
<p>7 全体で発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体でそれぞれのまほうのせりふカードを加えたお話を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を聞くことで、本時の学習でどのようなことを学んだのか、確認する。
<p>8 本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時で気づいたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の場面の挿絵を見せて、次の学習についてを想起させる。



雨が
たくさん
ふっている。

わっさわっさ
どんどん雨
しょんぼり

そらや山が
くらいいろ。

とても
かなしそ
うなかお。

山の火が
きえて
しまった。

山が
なっている。

せいくらべをしなきや
よかつたな。

けんかをしては
いけないなあ。

みんなにめいわくを
かけちゃったな。

せいくらべをしなきや
よかつたな。

かなしいきもちに
なってしまったな。

4のばめんの2つの山のようにすからせりふをかながえよう。